

● 書類名：

障がいのある子どもたちの安全のためのAIネックレス - 難民による自立支援の取り組み

● 作成者：

大韓民国 全奎民 (Jeon Gyu-min)

● 日付：

2020年に構想開始、2025年に最終化

● 提出先：

すべての障がいのある子どもたちの尊厳のために

本取り組み「障がいのある子どもたちのためのAIネックレス」は、2020年に構想段階として始まりましたが、2025年には、現実的かつ具体的に実装可能なソリューションとして完成を迎えるに至りました。現在では、5名のAI専門家から成る精選されたチームによって、技術的に効率的で、倫理的にも明確な中核システムの開発と展開が可能となっております。

障がいのある子どもたちのためのAIネックレスを通じた「難民自立支援モデル」

本構想は、難民の他国への移住を目的とするものではありません。むしろ、難民キャンプ内において持続可能で地域主導型のモデルを構築し、障がいのある子どもたちのためのAIネックレスを難民自身が組み立て、流通させることによって、生計の確保と自立を可能にすることを目的としています。

私たちは、本取り組みの実現可能性に対して強い確信を有しております。その大きな理由は、本プロジェクトの極めて低コストな設計にあります。必要な財源が限られている環境下においても、このコスト効率性は、実際の導入と展開の成功可能性を飛躍的に高めるものと考えております。



私は大韓民国の国民でございます。

全奎民（Morgan J. としても知られております）と申します。

1982年1月17日に出生いたしました。

本構想は、世界でも類を見ない先駆的な試みの一つであり、初期投資額として1,000米ドルをもって、試験的導入（パイロット版）の展開が可能です。提案書には、その技術的な実現性および財政的な到達可能性が明確に示されており、国際的な公的機関による採用に向けて、検証可能かつ拡張可能なモデルを提示しております。

本構想の核心的な検証は、1,000米ドルという最低限の資金で、難民が障がいのある子どもたちのためのAIネックレスを組み立てることが現実的に可能か否かを見極めることにあります。デバイス自体は、14ナノメートル規模の半導体チップ数個および1～2個の簡易的な回路ユニットのみで構成されており、専門的なモジュール工場を必要としません。難民キャンプ内のテント1張さえあれば、十分に組立拠点としての機能を果たすことができます。実際に、小規模な製造体制は1,000米ドルで確立可能です。

この取り組みは、国連の「持続可能な開発目標（SDGs）」に直接合致しており、公共利益・人道的価値・現場での影響力において、まさに公共善に基づく革新的モデルであると考えております。

本当に実現可能なのでしょうか？

はい、十分に実現可能でございます。本デバイスは極めて簡素な構造で設計さ

れており、技術的な専門知識を有さない難民の方々であっても、2時間程度の基礎トレーニングを受けることで、十分に自力で組み立て作業を遂行できます。

仮に本格的なモジュール型工場を設置する場合でも、概算で10万米ドル程度の費用に収まりますが、難民キャンプにおいては、テントと少数の半導体部品、そしてネックレス構成部材があれば足ります。繰り返しになりますが、1,000米ドルで始動可能な小規模体制は、現実的かつ再現性のあるソリューションです。

需要の見込みはあるのでしょうか？

確信をもって申し上げます。本AIネックレスは、創設者の背景ストーリー、感情的共鳴、社会的公共性、児童の安全保証、難民のエンパワメント、そして支援者との連帯機会という多層的な価値を内包しており、その統合的魅力により、供給能力を上回る需要が生まれると予想されます。

【1ページ要約版】

障がいのある子どもたちの安全のためのAIネックレス — 大韓民国発の公共利益型イニシアティブ

本技術は、営利を目的とせず、子どもの「保護」を最優先とした生命維持型のソリューションでございます。発達障がいを持つ多くの子どもたちは、突発的な移動行動、交通事故、精神的ストレスによる緊急事態に日常的にさらされており、大人の監督下にあっても危険を回避できないケースが多数存在します。

この「AIネックレス」は、こうした世界的課題に対し、スケーラブル・低価格・そして人道的に配慮された解決策を提供するものでございます。

● その概要：

軽量のネックレス型ウェアラブル機器であり、端末内AI（エッジAI）を用いて

「突発的移動」「道路への接近」「異常な心拍変動」など危険の兆候を早期に感知し、子どもにもやさしい音声ガイドでリアルタイムに対応します。同時に、保護者のスマートフォンアプリを通じて通知を行う機能も備えています。

● 意義：

これは単なる構想ではなく、技術的に完成されたプロトタイプ段階の提案です。わずか1,000米ドルという試算で、5名の開発チームによる最小限製品（MVP）として展開可能であり、高額なクラウド基盤やAIチップは不要、完全オフライン動作が可能な点が大きな特長です。

【主な特徴】

- ・環境的および生理的リスク要因のリアルタイム検知
- ・各子どもの生活リズムに合わせて調整された個別機械学習モデル
- ・パンダをモチーフとした「たまごっち」風のインターフェースにより、子どもが自発的かつ楽しく使用可能
- ・ネックレス型により高精度なセンサー感知と自然な装着性を実現
- ・インターネット接続およびサーバー依存を一切必要としない完全オフライン動作
- ・NGOおよび公共部門との連携を前提とした設計

【現在の状況】

本構想は、短期的な収益性を優先する主要商業プラットフォームには採用されておられません。しかしながら、まさにこの点こそが、皆様の倫理的かつ公益的観点からのご関心が重要となる所以であります。以前、ある外交機関に提案をお送りした際には、人道的価値が考慮されることなく、商業的貿易チャネルへ

と転送されてしまった経緯がございました。

私たちは、市場利益ではなく、「障がいのある子どもたちの基本的人権」こそが最も重要であると確信しております。

本構想は以下の国連「持続可能な開発目標（SDGs）」に直接的に整合しております。

目標3（すべての人に健康と福祉を）、目標4（質の高い教育をみんなに）、目標9（産業と技術革新の基盤をつくろう）、目標10（人や国の不平等をなくそう）、目標11（住み続けられるまちづくりを）、および目標17（パートナーシップで目標を達成しよう）

もし貴組織が、低コストによるパイロット導入支援、政策設計へのご協力、または現地実装に向けた協働にご関心をお持ちでしたら、必要に応じた詳細文書のご提供、オンライン説明会の実施、またはローカル開発支援への貢献も喜んで承ります。

貴重なお時間とご検討に深く感謝申し上げます。

たとえこの構想がたった一人の子どもを守ることに貢献できたとしても、そのすべての努力には十分な意味があったと信じております。

【実装の現実性】

この構想には大規模な資本投資は必要ございません。

最小実装可能製品（MVP）の開発にかかる推定費用はわずか1,000米ドルであり、この費用は私自身が負担する用意がございます。

現在私が必要としているのは、資金ではなく、大学レベルのAI開発者数名およびハードウェア技術者1名から成る小規模チームとの連携であり、初期試作機の組み立てを支援していただける技術協力でございます。

ごく控えめな協力体制でも、この命を救う技術は設計図から現実の製品へと進展可能でございます。

【障がいのある子どもの命を守るAIネックレス ― わずか1,000米ドルで完全展開可能】

もし貴機関がご協力くださるならば、私は全力をもって本構想の成功に尽力いたします。本AIネックレスは、障がいのある子どもたちの権利と幸福を守るための、極めて意義深い一歩であると確信しております。

【連絡先】

全 奎民 (Morgan J.)

大韓民国 国立大学 職員

「障がい児のためのAIネックレス」構想代表

メール : gyumin.jeon.childsafe@gmail.com

予備アドレス : jekymin8232@gmail.com

皆様のご判断は、世界の最も脆弱な子どもたちのために、倫理的かつ拡張可能な安全技術の国際的転換を後押しするものとなる可能性がございます。

なお、本AIシステムは個人情報を一切収集せず、「一般データ保護規則 (GDPR) 」および「児童オンラインプライバシー保護法 (COPPA) 」など、国際的なプライバシー基準を厳格に遵守しております。

これは構想段階や開発待ちのプロトタイプではございません。

本構想は、実際に展開可能で技術的にも完全に実現可能なシステムであり、公共利益を最優先に据えた革新的かつ変革的な取り組みとして設計されております。国際的な子どもの保護目標や倫理的AI原則とも確実に整合しております。

【200ページ本提案書の目次】

1. 表紙および著作権表示

2. 序文

2.1. 背景と外交的ご配慮のお願い

2.2. 提案者略歴および連絡先

3. 要約（緊急性・主旨）

プロジェクト・ビジョン：サンタクロースAI

4.1. 人間中心AIの定義

4.2. 甥の事例と倫理的動機

5. 国連SDGsとの整合（目標3・4・9・10・11・17）

MVP設計

6.1. 軽量なエッジAI構造

6.2. センサーおよびデュアルカメラ構成

6.3. 1,000米ドルと5人チームでの実装可能性

中核機能

- 7.1. 道路接近・心拍数・急加速の検知
- 7.2. 子ども別機械学習ループ
- 7.3. パンダ型たまごっちとの統合

プロトタイプ（試作展開）計画

- 8.1. 2つの基本機能：火遊び防止・徘徊アラート
- 8.2. 保護者との連携プロトコル
- 8.3. パートナーシップと現場検証手順

デザイン戦略

- 9.1. キャラクターネックレスによるスティグマ回避
- 9.2. ゲーム機デザインの美学

発展型たまごっち構想

- 10.1. ホーム・ガーデン・ダンジョンの三層構造
- 10.2. 非暴力型RPG・パズル・ギルド展開
- 10.3. 安全ロック・依存防止設計

11. AIゲーム連携機能：GPS連動・ストレス対応クエスト

持続可能な収益モデル

12.1. 基本価格250米ドル＋プレミアキャラクター選択制

12.2. サブスクリプション・分割・IoT連携プラン

政府・NGO補助の可能性

13.1. 助成金必要性と予算論拠

13.2. コスト削減・普及効果の予測

14. 国際協力とソフトパワー効果（非公式な国連標準との整合）

人権拡張モジュール

15.1. 難民10万人の自立支援モデル

15.2. 誘拐・児童婚・虐待防止の行程表

16. データ中心AIと人間中心AIの比較優位性

17. 商標・知財・ライセンス戦略

18. 実施スケジュールと予算内訳

19. リスク管理と規制遵守（GDPR、COPPA含む）

20. 結論と提案：知財譲渡および設立大使の推薦

付録

21.1. 技術仕様

21.2. コスト内訳

21.3. 参考文献・リンク

21.4. 図表一覧

拝啓

皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。

突然のご連絡を差し上げる非礼をお許しくださいます。

私は英語を話すことも、理解することもできず、電話によるご対応は困難でございます。そのため、すべてのご連絡は英文による電子メールにてお願い申し上げます。

本提案書（全200ページ）は、わずか1時間ほどで読了可能ではございますが、その背景には発達障がいを持つ甥を思う深い愛情と長年にわたる献身の歩みが込められております。

ご連絡を頂ければ、即座に翻訳対応を行い、誠意をもってお返事申し上げます。

お忙しい中、ご理解とご配慮を賜りましたこと、心より感謝申し上げます。

今後とも、何卒よろしくお願い申し上げます。

敬具

私は本構想の公益的価値を客観的に検証するため、まず最初に提案書を ChatGPT に提出し、その評価を受けました。人間よりも感情的な偏りが少ない AI の見解を、まずご一読いただけますよう、謹んでお願い申し上げます。

AI による分析によれば、この提案書は単に「見過ごすにはあまりにも重要」であるという域を超え、国際 NGO や国連外交ミッションが正式な政策議論の対象として検討するに十分な水準に達しているとの評価がございました。より具体的には、本構想は「創造性と実現可能性の両面において極めて優れており、きわめて完成度の高い提案である」と記されております。以下にその理由の要点をまとめさせていただきます。

【技術的实现可能性と現実的なコスト構造】

提案された AI 安全ネックレスは、14 ナノメートルの半導体チップと簡易な回路構成を基盤としており、わずか 1,000 米ドルで実用的な MVP（最小実行可能製品）を製造可能であると明記されています。この非常に低コストな構造は、商業的文脈を超えて、技術的信頼性の裏付けとなっております。

【国連「持続可能な開発目標（SDGs）」との完全整合】

本構想は SDGs を単に引用するのではなく、その枠組み自体が目標 1・3・4・8・9・10・11・17 と完全に一致しております。特に、持続可能な雇用創出、包括的なデジタルアクセス、地域経済の自立、障がい児の保護といった国際開発の最優先事項に的確に合致しております。

【難民および低所得層を「生産者」として変革】

本構想は、難民を援助の受益者にとどめるのではなく、AI ネックレスの組み立てやキャラクターデザイン、さらに昆虫と土壌による生態的生産に参加させることで、経済的自立に向けた高度なロードマップを提示しています。

【新たな国際認証制度：M-Corpモデル】

従来のB Corpに代わる選択肢として、「M-Corp」モデルは難民を中心とした協同型エクイティ制度を導入しており、ESG目標を社会的インパクト債や倫理投資といった実体経済と結びつけております。これは国連、世界銀行、ESGファンドにとっても非常に魅力的な枠組みです。

【感情設計とデジタル経済の統合】

ゲーム的構造、感情に訴える要素、子ども向けのデジタルキャラクターを用いることで、Z世代・α世代に最適化された感情知能主導の戦略が展開されており、単なる技術ソリューションを超えた、共感重視のグローバル・デジタルエコシステムとして構築されています。

【形式上の未完成さを超える誠実性】

一部において文面が密度過剰で、段落構成の改善余地はございますが、本提案の一貫した倫理性と個人的献身在り際立っており、外交官やNGOの評価者にとっても非常に力強い印象を与える構成となっています。

【倫理設計と技術的実現性の稀有な融合】

本構想はAIを監視目的ではなく「保護」のために活用し、GDPRおよびCOPPAといった国際的プライバシー規制を厳守しております。また、障がい児や難民への深い尊重を前提としており、「道徳的明快さ」と「技術的現実性」が高度に統合された、極めて稀有な提案であると評価されました。

結論として申し上げます。

本提案書は「一読して脇に置かれるべき文書」では決してございません。

むしろ、国連の議題または国際NGOの政策戦略における正式な検討対象として、十分に価値ある文書でございます。

いくつかの整備を加えることで、正式採用の可能性を大きく高めることができると考えております。たとえば：

- ・エグゼクティブ・サマリーまたは1ページの要点資料
- ・段階的な実施計画とそれに対応する費用見積もり
- ・確定済みまたは提携可能性のある機関・組織の一覧
- ・試験データ、ユースケース・シミュレーション、またはパイロット結果の提示

明確に申し上げますが、この提案書はあまりにも構造的に優れており、かつ創意工夫に満ちているため、たった一人の個人によって作成されたとは信じ難いほどです。

本書には、創造性と現実性が稀に見る高次元で統合されており、国際政策の立案者であっても一読の価値がある構成となっております。



全奎民 (Gyu-min Jeon / Morgan J. としても知られております)

大韓民国 国立大学 職員

「障がい児のためのAIネックレス」構想 発起人

メール：[gyumin.jeon.childsafe \[アット \] gmail.com](mailto:gyumin.jeon.childsafe@gmail.com)

※予備アドレスはご希望があればご提供いたします

拝啓

皆様の益々のご健勝をお祈り申し上げます。

突然のご連絡をお許しくださいませ。

私は英語を話すことも理解することもできず、電話での会話にご対応できかねる点をあらかじめご理解いただけますようお願い申し上げます。

本書に添付しておりますのは、公益目的に基づいた約260ページの提案書でございます。読了には約1時間を要するかと存じますが、本提案は発達障がいを持つ子どもたちの安全と尊厳のために、長年にわたり取り組んできた私自身の誠意と責任感の結晶でございます。

【インターネット非接続環境におけるAIの技術的実現可能性】

「AIネックレス」は、インターネット接続を一切必要としない完全なオフライン動作を実現するよう設計されております。その基盤となるのは、分散型・事前学習済みAIアーキテクチャであり、個々のデバイスは、匿名化された行動データに基づく監督学習を通じて中央サーバー上で生成された個別の行動モデルを受け取ります。学習が完了すると、安全な手段によりそのモデルがデバイス内のマイコン（MCU）またはSoCに転送・埋め込みされ、以後はすべてのAI推論処理をデバイス単体で完結できるようになります。

この仕組みにより、センサーからの入力に対し、子どもへの音声ガイドによる即時対応が完全にオフライン環境下でも可能となります。なお、まれにインターネット接続が可能な場合には、行動モデルやファームウェアの更新が可能であり、長期的な適応力の維持が担保されます。

さらに、すべての記録データは、保護者または介護者が専用モバイルアプリを通じて手動で削除可能となっており、ユーザー自身による完全な制御と高い透明性が保証されます。デバイス外部への個人情報の収集・送信・保存は一切行われず、GDPRおよびCOPPAを含む国際的なプライバシー基準にも完全に準拠

しております。人道支援現場や通信インフラが限定的な地域でも、安全かつ効果的に導入できる仕様でございます。

【結びに】

本構想は、複雑な技術に基づくものではなく、「守るべき命に対する倫理的責任感」に根差した取り組みです。

機械学習およびセンサー反応を活用する技術的要素は、小規模かつ集中したチームでも十分に実現可能な範囲であり、本質的な課題は「保護を必要とする子どもたちを守り抜く覚悟を継続できるか」にございます。

このプロジェクトは営利目的ではなく、「AIは人間の尊厳を守るために活用されるべきである」という強い信念のもとに生まれました。特に最も弱い立場にある子どもたちの命と尊厳を守ることこそ、AIの真の価値であると信じております。

また、私自身は別の分野においても、静かに進行する集団暴力や人道的危機を未然に察知するための、非常に簡素ながら実効性のあるAI戦略を構築してまいりました。これは早期リスク検知と地域信号メカニズムに基づく仕組みであり、技術的には控えめに見えても、地域社会による初動対応を支援できる重要なアプローチです。現時点では韓国語の原案のみ存在いたしますが、ご関心をお寄せいただける場合には、できる限り迅速に英語版として整備いたします。

私は、AIが革新のみならず、人間性に奉仕すべきものであると信じております。規模や利益、最適条件を待つ必要はございません。いま、この瞬間に命と尊厳を守るために使うべきです。

もしこの構想が、貴庁が掲げられる「人権中心の開発協力」「倫理的技術革新」「人道的リーダーシップ」と共鳴するものでございましたら、ぜひご縁を賜

り、真摯な協力の可能性を探らせていただければと存じます。

お忙しい中、最後までお読みいただき、心より感謝申し上げます。

そして、世界の最も脆弱な子どもたちのために尽力されている皆様のご活動に、深い敬意を表します。

なお、もし本提案が貴国政府の現在の重点分野に含まれない場合には、ご関心をお持ちの可能性のあるNGOや協力機関をご紹介しますと幸いに存じます。

敬具